

つかさどる人の NEWS

NO.38
2016.2 発行

(公財)日本生態系協会
グランドデザイン総合研究所

〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-30-20 音羽ビル
tel.03-5951-0244 <http://www.ecosys.or.jp>



持続可能な 地方の創生に向けて



地方創生で求められるのは、持続可能な社会をいかに実現していくかです。人口減少と高齢化への対策のひとつとして2014年11月に「まち・ひと・しごと創生法」が成立し、同年12月には同法に基づく国の長期的なビジョン「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が発表されました。こうした状況の中、地方自治体には地方の衰退に歯止めをかけ、独自性のある「地方創生」に取り組むことが求められています。そして大切なことは、私たちの生存基盤である生態系を健全な形で守り、再生することです。さらに、そこから得られる自然の恵みを持続的に利用し、地域が本来持つ魅力や価値を引き出し、観光やまちづくり等の活性化につなげる視点を持つことです。こうした取り組みは、地域の絆やつながりを深め、地域経済を振興する大きな原動力となります。

当協会は昨年11月20日に、自然と伝統が共存する持続可能な自治体づくりをテーマに、新しい時代にふさわしい『地方創生』のあり方を提案する国際シ

ンポジウム「地方創生に求められるもの～地域と世界を結ぶ～」を開催しました。今号では、本シンポジウムの内容を紹介いたします。

趣旨説明：日本生態系協会会長 池谷奉文

持続可能な社会を築くためには、人間の生存基盤である健全な自然の生態系をきちんと守り再生することが第一です。そして「地方創生」は、環境、社会、経済のバランスを維持することで達成でき、その鍵となるのが地域独特の野生生物と景観や伝統です。また、それとともに重要なことは、それらを美しく見せることです。それは思わず写真を撮りたくなるようなひと工夫をすることと、ビューポイントを表示することです。人々は美しさに永遠の魅力を感じ、行ってみたいと思うのです。それこそが地方の持続的な経済の活性化の真髄なのです。これからの日本には、是非美しく変わっていってほしいと願っています。

特別講演：順天市 趙 忠勲 市長
 シンジョン チョ チュンファン

『順天湾と順天湾国家庭園 - 効率的な保全と持続可能な発展による創造経済効果』

順天湾の沿岸湿地（22.6 km²の湿地と 5.4 km²のヨシ原）は、通年生息する約 1,000 羽のナベヅルをはじめ、10 万羽以上の渡り鳥に利用されています。市では庭園の中に都市がある「庭園都市順天」をスローガンに、市内に 1,112 km²の公園を整備し、それを拠点に 2013 年順天湾国際庭園博覧会を開催しました。そして開催跡地が、2015 年 9 月 5 日に国内初の国家庭園に指定されました。今後、現在の利便性よりも次の世代に続く持続可能社会を目指し、エコツーリズムの一層の推進、放棄された塩田と内陸部の湿地において生態系を復元する作業を進めています。これらは政府のモデル事業にも選定されており、2016 年から本格的に始まる計画です。このように順天市では、市民の幸福はもとより、生態系を基盤とした経済的成功を夢見ています。



現在、順天市には大規模な工場も産業団地もありますが、市には順天湾と順天湾国家庭園があります。順天湾にはツル類や湿地の美しい景色などを目当てに毎年 500 万人以上の観光客が訪れ、

市の経済に 1,000 億ウォン（約 100 億円）以上の波及効果をもたらしています。今後も順天市は、市民の幸せな暮らしのために、自然と人間が共存できる都市づくりの実践にベストを尽くします。

自治体からの報告：

鹿児島県出水市 渋谷俊彦 市長

『ツルが選んだまち ~出水市の取組~』

「ツルが選んだまち」出水市には毎年 10 月下旬から翌年 3 月にかけ、1 万羽以上のツルが越冬のために渡来します。市ではツルの保護を目的に昭和 47 年頃から農地の借り上げを始め、現在では面積 104ha、180 人ほどの地権者に農地提供の協力をいただいています。戦後は 300 羽程度の飛来数でしたが、こうした取り組みによってツルの安全が確保されると同時に餌も確保され、現在までの増羽につながったと考えられます。また市では、ツルを銘打ったウォーキング大会などの各種イベントの開催、「歩いて」「見て」「体験できる」観光の確立、特産品や農産物のブランド化を進め、ツルとの共存共生を図りながら地方創生に取り組んでいきます。



求められるもの

地域と世界を結ぶ

山口県周南市 木村健一郎 市長

『周南のナベヅル』

ツルと「共に」生きる里の挑戦』

周南市八代地区は、国の特別天然記念物に指定されているツルの里です。明治20年、全国に先駆けて法（山口県令）によりツルの捕獲が禁止されるなど、近代自然保護制度発祥の地といわれています。周南市では、文化庁や山口県と協力して、ツル越冬地の保全に取り組んでいます。また、ツルの生態に配慮した農業基盤整備により、米のブランド化にも取り組んでいます。その結果、一旦は衰退してしまった中山間地域の絆や繋がりが復活し、地域経済も徐々に活性化しつつあります。このようなツルと共に生きる八代の里の取り組みは、環境の時代にふさわしい地域創生のひとつの方であると考えます。



新潟県佐渡市 甲斐元也 市長

『離島佐渡の挑戦～歴史と文化が薫り自然と人が共生できる美しい島～』

佐渡市では「歴史と文化が薫り 自然と人が共生できる美しい島」を基本コンセプトに、地方創生を進めています。農業を通じた生物多様性保全



活動では、里山が守られ、「生きものを育む農法」で生産した「朱鷺と暮らす郷づくり」認証米による高付加価値化などの成果が出ています。離島であるがゆえに守り続けられてきた豊かな自然と歴史・文化を最大限活用して、世界農業遺産、世界文化遺産、世界ジオパークの認定を目指した多様な観光・交流、佐渡学等の推進による佐渡への愛着を持った将来の佐渡を担う子どもの育成に取り組んでいます。そして、佐渡に生まれ、育った人たちが、佐渡に誇りをもち、依存するだけではなく、まず自立するということを一人一人が考えてやっていく、それを地方創生の原点として進めて参ります。

島根県出雲市 長岡秀人 市長

『人と自然が共に生きる、

大型水鳥類をシンボルとした地域づくり』

出雲市周辺には、ラムサール条約湿地でもある宍道湖と中海を中心に、多くの水鳥が飛来する豊かな水辺環境があります。また、出雲市は全国に4カ所しかないトキの分散飼育地に選ばれ、2011年から実績をあげています。そして2015年、この豊かな自然環境を活かし、魅力的な地域づくりに取り組むために、斐伊川を管轄管理している国土交通省出雲河川事務所が中心となり、「斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会」が立ち上りました。これは国や県、宍道湖・中海沿岸の市などと大型水鳥類と共に生きる流域づくりの検討を目的とした組織です。この取り組みはまだ始めたばかりですが、ハクチョウやガンに加え、ツルやコウノトリ、そしてトキがこの地域の空を華麗に舞う姿を思い描きながら、この地域ならではの資源を最大限に活かし、魅力ある地域



の概要

2015年11月20日開催

づくりを進めて行きます。

宮城県大崎市 伊藤康志 市長

『渡り鳥との共生を核とした

持続可能な地域づくり』

毎年 10 万羽を超えるマガンなどの水鳥が飛来する「渡り鳥の楽園」大崎市には、2 つのラムサール条約湿地があります。特に、登録名に「水田」の名を冠した世界初の条約湿地「蕪栗沼・周辺水田」では、多様な主



体による湿地環境と生物多様性の保全、渡り鳥と共に共生する無農薬米の栽培やエコツーリズム等に取り組み、豊かで美しい持続可能な地域づくりを進めています。渡り鳥との共生のまちづくりは、地域での経済活動や環境活動、人づくり、シティプロモーションというかたちで大きく発展してきました。そして、今後はこの取り組みをさらにステップアップさせ、大崎の取り組みを次の時代につなぐ目的から、FAO（国際連合食糧農業機関）の世界農業遺産への認定申請の準備を行っています。

兵庫県豊岡市 中貝宗治 市長

『コウノトリと共に生きる～ 豊岡の挑戦～』

コウノトリが再び豊岡の空に羽ばたいてから 10 年、コウノトリ野生復帰は着実に進んできました。市では現在、環境経済戦略のもと、環境を良くすることにより経済を活性化し、環境と経済が共鳴する関係をつくりあげています。また、農薬に頼らない農法を広げ、高付加価値の無農薬米の作付けを増やしています。これらの取り組みの目的は、コウノトリが住める環境をつくるだけではなく、人間にとっても素晴らしい環境をつくることです。野生復帰事業の主体は、様々な構成員からなる豊岡という地域社会

そのものです。自分たちの地域をコウノトリも住めるようなまちにしたいのか、したくないのか。その選び取りは重要な自治の問題であり、豊岡市はコウノトリと共に暮らすという道を選択したのです。人間とコウノトリと姿形は違いますが、同じ命です。「命の共感」、その共感こそが私たちの原動力でした。これから先、日本中が命の共感に満ちた「まち」になることを期待します。

栃木県小山市 大久保寿夫 市長

『コウノトリが飛来し、

ホンモロコが育む 渡良瀬の未来』

市ではラムサール条約湿地登録した渡良瀬遊水地を「地方創生の柱」とし、治水機能確保を最優先とし、「エコミュージアム化」「コウノトリ・トキの野生復帰」、そして「環境にやさしい農業を中心とした地場産業の推進」を図ります。これらの取り組みを実現するため、2014 年度からの 5 ヶ年の年次計画により、インバウンド（訪日外国人客）に対応した観光地化を目指して、アクセスやおもてなし体制、周辺市町との連携や受け入れ体制の整備等、様々な事業を展開します。



さらに、渡良瀬遊水地周辺の水田などの水辺環境は、北関東地域の良好なエコロジカル・ネットワークの核となっています。豊かな生態系の指標として、水辺生態系の高次消費者であるコウノトリが生息する環境を目指す「渡良瀬遊水地エリアエコロジカル・ネットワーク推進協議会」が 2015 年 11 月、設立されました。今後は多様な主体と連携し、自然環境の保全・再生を推進し、賑わいのある地域振興・経済活性化に取り組みます。

**徳島県 飯泉嘉門 知事
『コウノトリが運ぶ農業の未来
～お接待文化が息づく徳島の取組み～』**

2015年の夏、兵庫県生まれのコウノトリが鳴門市のレンコン田に飛来し、「巣作り」を始めると大事件が起きました。県ではすぐに「生物調査」「餌場の確保」「啓発」「営巣」「ブランド推進」の5つの部会をスタートさせる



とともに、営巣地周辺を「鳴門コウノトリ鳥獣保護区」に指定し、コウノトリの定着をめざした「お接待作戦」を強力に推進しました。今、国・地方を挙げて、「地方創生」の大競争時代となっています。こうした「地方創生の元年」に、コウノトリがやってきて、レンコン田で営巣した。長らく減農薬など、「環境にやさしい農業」に取り組んでこられた農家の皆さん方のその努力を、コウノトリが国内外に発信してくれました。今後「コウノトリ」と共に「地方創生の旗手・徳島」というだけでなく、「日本創生」の礎を皆さん方とともに、しっかりと創り上げて参りたいと思います。

挨拶：石破茂 地方創生担当・内閣府特命担当大臣

現代はまさに後世から『歴史の転換点であった』と振り返られる時期であり、国ではなく個々の地域の決断が求められています。地方が主役であり、まさしく地域にこそ資源と知恵があるのです。持続可能とはどういうことなのか今一度考え方直し、自然こそが重要な資本であると再認識することが必要です。



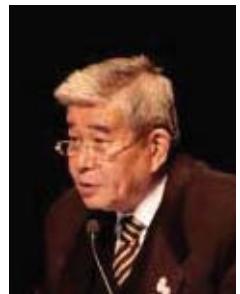
挨拶：鳩山邦夫 衆議院地方創生に関する特別委員会委員長（当時）

資本論では「経済が下部構造で、その上部構造として政治や法律、文化というものがある」とされていますが、経済の下には下部構造として自然生態系があり、それが経済を根底で支えているのではないかと思っています。したがって、あくまでも生態系を重視し、自然との共生を軸として地方創生を進めて行きたいという気持ちで私は仕事をしています。経済活動と自然保全の共存こそが地方創生の鍵となります。



総括：涌井史郎 東京都市大学教授

今まさに世界史における第三の革命「環境革命」が起きようとしています。自然を資本として捉え、その土地に生きる人々の自然の恵沢や災害などに呼応して生きる知恵を活かすことが、地方創生で目指す、個性あふれる地域や持続可能な社会の実現につながります。



※本シンポジウムの講演録を作成しました。ご希望の場合は事務局までお問い合わせください。



全国学校・園庭ビオトープコンクール 2015 一実践モデル校・園が決まる

本コンクールは、子どもたちのために身近な自然をつくり、豊かな感性を育む保育や幼児教育、持続可能な社会に欠かせない環境教育・ESD を促進するため、1999 年から隔年で開催しています。今回で9回目（18 年目）となります。このたびも、たくさんの実践モデル校・園が選ばれました。



豊田市立 五ヶ丘東小学校 学校の敷地にかつての自然を取り戻し、隣接する自然とのビオトープ・ネットワークを進めるモデル

文部科学大臣賞

(学) 雪見ヶ丘学園 井上幼稚園（愛知県）

環境大臣賞

豊田市立 五ヶ丘東小学校（愛知県）

国土交通大臣賞

(学) 東京内野学園 東京ゆりかご幼稚園（東京都）



(学) 東京内野学園 東京ゆりかご幼稚園 ニュータウンで園庭里山化と、自然と共に生を進めるモデル



琉球大学博物館（風樹館） 特別支援学校などと連携し障害者の自然体験を促進させるモデル

グランドデザイン総合研究所は、自然と共に生を進める美しいまちづくりの方法を、行政や議会、市民に提案するシンクタンクです。
お気軽にご連絡ください。

(公財) 日本国生態系協会

グランドデザイン総合研究所 tel. 03-5951-0244

- 50年先、100年先の世界にひとつのグランドデザイン作成
- 海外の先進事例に関する情報提供
- 国の事業を活用した自然と共に生を進める持続可能なまちづくりの提案
- 海外視察ツアーの企画・コーディネート
- 行政職員や市民向けの研修会や講演会への講師派遣
- あなたのまちをテーマとした国際シンポジウムなどの企画・開催